

大谷

HAKODATE OTANI



函館大谷学園報
2022 October

vol.28

わたし一人

学校法人 函館大谷学園 理事長 門 間 佳 一

函館大谷高校が創立130周年を迎えてから、早いもので来年が135年という節目となります。130年を迎えた年は、建学の精神にある「わたし一人」という言葉に改めて深く思いを致したことでありますが、そのわたし一人というのはどのような私なのでしょう。

尾畑文正師が先月29日開催の、大谷婦人会北海道連合会秋の研修会での講話の中で、ブラジルで南米開教監督当時、地下鉄を利用したときに車内のポルトガル語で書かれたポスターに目を引かれたそうです。そこには「あなたは一人ではない」と書かれていたそうです。その時、尾畑先生は「自分は一人ではない、これが人間の原則ではないか」と思われ、「“あなたは一人ではない”そういう世界を見失っていた」と深く感じられたそうです。

一人と感じる時は、孤立・孤独を感じるということなのでしょう。それを立ち所とすると、不安・悩み・苦しみが生れます。そんな時、私どもは潜在的に「なぜ私だけが」という思いを起し、その理由を外に求め「あれが悪い・あいつのせいだ」と結論付けます。このことが限界を超えた時、今現在ニュースなどでの事件が起き、「あれが悪い・あいつのせいだ」が根っこになっている気がいたします。

先般、高校の教職員さんから「生徒がこの学校は、先生が寄り添ってくれている・共に歩んでくれている。真剣に聞いてくれる・わかってくれる」という感想を述べてくれたことを聞きました。先の孤立・孤独感を与えずにこられたのかなと感じつつ、以前読んだ仲野良俊師の言葉を思い起こしました。師は「有量の諸相」を話される中で、「…あれは人間のことをいうてあるのです。無量寿は仏です。有量寿は人間のことです。有量を別の言葉で言い換えれば有限ということでしょう。人間は有限です。人間というものは限りがある、つまり無常である。…限りがあることを仏教では無常と言います。」と言われ、この身もそうですが「…われわれが無常だというのは、結局われわれの心の問題なのです。

都合のいいことが好きで、都合の悪いことは嫌いでしょう。その心を抱えておれば、世界は全部無常です。」と、私たちの姿を言い表されました。また、そういう無常に生きている私たちの「命の根本はなにか」と尋ねられ、親鸞聖人は「心もおよぼず、ことばもたえたり」とおっしゃった。言い方が一つあるとすれば「如」という言葉で「…われわれがそこから生まれてきて、それに支えられて生きており、やがてそこへ帰っていくという大事な命の根元、それを如というのです。」と言われます。また、「…如がわかりますと、そこにほんとうに安心もあり、満足もあり、文句の言うてみようもない、そういうものが一つ開けてくる。そして無常のわれわれが、そういう無常でない命をいただくということのためには、如がわかるということしかないのです。それ以外に永遠ということの道はありません。人間に永遠などはあるはずはない。…」と言われ、「…如をいただくというのは如の心になるということ、…この如の心に触れさせてもらうということ以外にはない。それに触れるために如からわれわれのところへ来たのを如来というわけです。」と示して下さいます。仲野先生が言われた姿を言い表したのが「雑業を棄てて本願に帰す」という親鸞聖人のお言葉でありましょう。「帰命無量寿如来 南無不可思議光」という姿です。

生徒の一言に、この学園に間違いなく建学の精神の風が流れていることを知り、節目を迎える来年に向け、いよいよ知識だけでなく、親鸞聖人の教えに訪ねて自分に出会い直していくことができる、またそういう学校に保護者の方々も安心できるよう、建学の精神が薫る歩みをしてまいりたいと存じます。



短期大学



ひととずっといきいきと

入学式

2022年4月5日11時より、函館国際ホテルにて第60回入学式が挙行されました。コミュニティ総合学科27名、こども学科50名の計77名が1年生として入学を認められました。昨年度と同様、コロナウィルス拡大・予防に伴い、来賓・保護者の参加は見合わせとなり、入学生・献灯献花手伝い学生(2年生5名)・教職員だけの式となりました。入学式は、献灯献花→入学生発表→入学生宣誓→学長式辞と進みました。新入生の意欲ある宣誓を聞いた後、学長から本学での学びへの期待が述べられ、30分ほどの短い時間ではありましたが、厳粛な雰囲気の中で今年度最初の式典が終わりました。



スポーツ大会

2022年7月2日午前、大谷高等学校体育館にて学友会主催のスポーツ大会が開催されました。当日は両学科の学生たち(30名ほどが参加)が学年も混ぜた新規のチーム編成(くじ引き)をおこない、ドッチボールとバレーボールの対戦をしました。試合数も多く、参加者にとってはかなりの運動量となりました。表彰式では優秀チームに賞品が贈られました。学友会に所属する学生が裏方を担当し、怪我人も出ず、楽しいレクリエーションイベントとなりました。



(参加者の声)

- ◆やっけていても、見ているだけでも楽しかったです。次の大会にも参加してみたいと思いました。
- ◆初めて参加してみましたが、白熱した戦いが出来て楽しかったです。

ダイナマイトサマーフェス2022お手伝い

2022年7月16日から18日の3日間に函館市内で開催された「はこだてダイナマイトフェス」にスタッフとしてコミュニティ総合学科1年生全員がボランティア参加しました。今回のイベントから、地域の飲食店の皆様のビジネス、食に関わるイベントを主催する方法、ノウハウといったものを現場から学びました。事前に学内でチーム分けをおこない、イベントの目的を理解し、その中で各チームの目的や役割を確認しました。どうしたら目的を達成できるかをチーム、個人として考えてイベントに臨みます。イベント当日は天候不順もあり、予定通りとはいきませんでした。困難に対して、チーム一丸で解決策を見つけて行動し、乗り越えることで自信になりました。活動の様子は地元新聞にも取り上げていただき、イベント参加者だけでなく、多くの市民の皆様にも知っていただくこととなりました。



合同オープンキャンパス

2022年8月28日に合同オープンキャンパスを開催しました。高校生や保護者の皆さんの「どんな校風の学校?」「どんな資格が取れるの?」「学生生活はどのような感じ?」「卒業後の進路・就職は?」といった疑問におこたえするイベントです。展示物、スライド説明だけではなく、在学生や教員が対面してお伝えします。当日は多くの参加者があり、両学科の特徴、短大の授業について、サークル活動、校舎案内などおこないました。参加者が真剣に話を聞いている様子は非常に嬉しく、実りのある進路を決めてほしいと思います。本学には合同オープンキャンパスだけでなく、学科単独のオープンキャンパス、よりみちオープンキャンパスもあります。また、学校紹介動画はYouTube(函館大谷短期大学チャンネル: <https://www.youtube.com/channel/CORGoy4s0JwSB9iy14-Aynw>)からも視聴することができます。



高等学校



HAKODATE OTANI
HIGH SCHOOL

THE DAY SURELY COMES ～その日はきっと来る～

校長だより

校長 丸山 政秀

近頃、テレビなどで頻繁に宗教について取り上げられている番組をよく目にするようになった。しかし、どの番組をみても宗教団体や政治家の批判はするものの、一番大切な「宗教とは何か」という点が抜け落ちているのではないだろうか。その為、どの番組も必ずと言っていいほどすっきりしない終わり方を繰り返している。

本来の宗教のあり方とは「宗の教え」であるべきものである。「宗」とは生活していくうえで中心となっていくものであり、宗教とは人が生きるということと本質的に結びついているもので、必要・不必要と言うことではないものである。つまり宗教とは「信じれば願いが叶う」といった都合の良いものではないのである。

大谷大学初代学長であった清沢満之先生は『精神主義』の中で「吾人の世に在るや、必ず一つの立脚地なるべからず。若し之れなくして、世に処し、事を為さむるとするは、恰も浮き雲の上に立ちて技芸を演ぜんとするもの如く、其の転覆を免る事能わざること言を待たざるなり。」と、生きていくなかで何があってもびくともしない確かな支えや拠り所が無ければ、雲の上で何かをしようとして、ひっくり返ってしまうと述べている。そしてこの支えとなるものこそが「宗」なのである。もちろんそこには内観を通して明らかとなった自身の内実という裏打が必要不可欠であろう。

私達は目に見える事に一喜一憂してしまい、物事の本質が見えなくなってしまうのではないだろうか。それはメディアのせいだけでは決していない。それを見る私たちのとらえ方にも見直すべきところがあるように思う。

そんな今だからこそ、「大谷」を名告る学校として、「建学の精神」に立ち返った歩みを一步一步していきたい。



ハレバレティモンディ

『ハレバレティモンディ』(STV土曜13:00～放送中)の取材で、お笑いコンビティモンディの2人が来校してくれました。

自転車競技部や日本拳法部を回ってくれて、一緒に練習などをしてくれました。また、学校祭について色々と生徒会役員と話をしてくれ、うちのデザイン案などを一緒に考えました。

生徒は突然の来校に驚いている様子でしたが、緊張しながらも楽しそうに話をし、写真を撮ってもらいました。



青稜祭を終えて

一昨年の中止、昨年の制限を設けた1日日程での実施を経て、今年度はいろいろと制限があるものの2日日程での実施をすることができました。「みんなの青春の手伝いをしたい」との想いで生徒会全員、そしてティモンディのお二人の力を借り、準備をしてきました。果たしてこんなにも制限をかけた内容で生徒たちは本当に楽しんでくれるのだろうかという私の一抹の不安も、準備期間を含めた6日間楽しそうに過ごしている生徒たちの笑顔が吹き飛ばしてくれました。

生徒の皆さんにとっては、どんな青稜祭だったでしょうか。恐らく物足りなく感じている人も少なくないでしょう。でも、間違いなく思い出に残る青春の1ページとなったのではないかと思います。

今後もコロナ禍における学校生活が続きますが、今回の青稜祭での経験を忘れないようにしていきましょう。生徒の皆さんが先生方の思いを受け止めながら学校生活を送ることができれば、きっとさまざまな困難を乗り越えていくことができるはずです。



インターハイを終えて

3年 中石 湊 (自転車競技部)

今年、アジア選手権、ジャパントラックカップ、全国総合体育大会(インターハイ)、世界選手権と去年よりたくさんの試合に出場することができました。どの試合も高校最後の年なので悔いなく、全力を出して挑みたいという思いで望みました。アジア選手権では、スプリント(SP)・ケイリン(KR)・1kmタイムトライアル(TT)の三種目に出場し、三種目ともメダルを獲得しました。(SP 優勝、KR 2位、TT 3位)ジャパントラックカップでは、スプリント予選のフライング200mタイムトライアルで日本ジュニア新記録を更新することができました。インターハイでは、去年の優勝に引き続き今年も大会新記録で優勝でき、目標としていた二連覇をすることができました。世界選手権では、スプリント、ケイリン、1kmタイムトライアルに出場し、1kmタイムトライアルでは日本ジュニアで初のメダルを取ることができました。(SP 7位、KR 5位、TT 3位)世界選手権に出場したことで自分の実力がどの位置にあるのかや、課題も見つかりとても良い経験になりました。今まで培ってきた力を信じてこれからも頑張っていきたいと思います。



3年 村上 裕太郎 (陸上部)

私は2年連続でインターハイに出場することができました。去年は予選でベストを出せずに敗退してしまいました。その悔しい思いをバネに、3年生では活躍できるように毎日陸上の練習を集中してやってきました。3年間、陸上に真剣に向き合ってきたと胸を張って言えるくらいやりました。

そして迎えた最後のインターハイでしたが、自分の本来の力を出し切ることができず2年続けて予選敗退という形で終わってしまいました。私は大学に進学して陸上を続けようと思っています。「努力は必ず報われる」そうでないときの方が多くと思いますが、これから報われるように努力を続けて日本一をとれるように頑張っていきたいです。



2年 古池 祐太 (卓球部)

私は、7月29日(金)～8月3日(水)に愛媛県宇和島市で行われた「第91回全国高等学校卓球選手権大会」の男子ダブルスに出場しました。各地方から色々な強豪校が集まって来ていて、あの舞台で試合ができたことをとても誇りに思いました。以前、私が中学校1年生で、相手の林馨が小学校6年生の時に、カデットの部で全国ベスト16に入りました。過去の成績を超えることを目標にし、全国ベスト8を目指して約一ヶ月半の間、ダブルスに今まで以上に力を入れて練習しました。しかし、現実とは甘くなく2回戦敗退という結果になりました。やはり球質などが今まで戦ってきた人たちよりも一つ上でした。しっかり負けを受け入れて、課題を克服し10月に行われる全日本選手権の北海道予選会で勝って全国大会に行くこと、そして12月に行われる選抜大会で全道優勝をすることを目標に一日一日の練習を大切にチームのレベルをさらに高めていきたいと思っています。



附属認定こども園



笑顔あふれる楽しい毎日!!
みんないっしょにおおきくなろう!



花まつり

5月20日の花まつり、憧れていた稚児衣装を身に付け、お化粧をして、気持ちが高まる子どもたち。いつもと違った雰囲気ドキドキしながら、優しい気持ちで合掌し、灌仏を行い、お釈迦様のお誕生をお祝いしました。

学園本部の小町さんに法話をいただき、話の中で「友達を大切にするには？」という問いかけに「仲良くする!」と答える姿が見られました。一人一人は違うけれどみんな大切な存在だということ、そのために相手の言葉に耳を傾けたり、思いやりの気持ちをもったりすること、また、自分自身をも大事にすることが大切だと感じられる法話でした。

最後は、親子で手を繋ぎ、園の周りを稚児行列で歩きました。嬉しそうな表情があふれる中、親子で花まつりの雰囲気を味わうことができた充実した時間となりました。



みんなでジャンプ☆

明るくりズミカルな曲に合わせ、体を動かすリズムジャンプ☆『ラインを踏まない』『音に合わせる』『合図でスタートする』という3つのルールを守りながら、様々な体を動かします。

両足でジャンプやカエル跳びをしたり、足をクロスさせたりしながら進んでいきます。友達と列車を作り、繋がったままジャンプ!思うように進まず崩れてしましますが、繋がっている友達と呼吸や気持ちを合わせ、掛け声を掛けながら進むことなど、子どもたちなりに考える姿に年長らしさを感じました。

曲に合わせて体を動かす面白さやのびのびと動かす解放感、そして、友達と協力することで得られる満足感をもつことができた良い経験となりました。



製作遊び楽しいね!!

0歳児は小さな手足に絵の具やインクをつけてスタンプングを取り入れました。不思議な感触に顔を歪めたり、泣いたりする子もいますが、様々な経験が感性の育ちに繋がる大切な経験だと思います。



1歳児はカラーセロハンなど、つまむことが少し難しい素材を透明な台紙に貼る製作にも挑戦!光が差し込む保育室の窓に飾ると、「綺麗なだね」「キラキラしているね」など、素敵な歓声が上がりましたよ。

2歳児はお花紙を丸めて、カラービニールで包み、いちご畑を完成させました。園外保育でいちご狩りに出掛けた時は、本物の真っ赤で甘い、いちごに大喜びでした!!

見て触れて、五感を刺激されることで、「やって楽しい!!」「見てうれしい!!」と感性を豊かにしていける体験をしたいと思います。



松前認定こども園

はじける笑顔 松前っ子!!
みんなともだち。この指と〜まれ!!



楽しい、おいしい夏まつり!

今年の夏まつりは、昨年に続き、感染症対策のため、先生と子どもたち、役員の保護者の皆さんに手伝っていただき、2日間で行いました。3・4・5歳児の子どもたちを中心にお店の看板や魚釣りに使う魚のぬりえをして、夏まつりに向けて、先生と力を合わせて準備をしました。そして、待ちに待った夏まつりの日!子どもたちはそれぞれお気に入りの浴衣や甚平に身を包み、チケットが入ったお財布を大事に握りしめて、夏まつりへレッツゴー★1日目は魚釣り、玉入れゲーム、わたあめの日!お菓子の入った魚を釣り、玉入れゲームでは、ご褒美に手作りメダルをゲットして大喜び!ふわふわのわたあめは大きな口で頬張っていました♪2日目はヨーヨー釣り、くじ引き、かき氷の日!真剣な表情でヨーヨーを釣ったり、ドキドキしながら、くじを引いたりしていました。最後は冷た〜いかき氷を満面の笑みで食べていました★

今年も、子どもたちにとって、楽しくておいしい特別な思い出になったようです♪



楽しかった親子遠足!

6月11日、2年ぶりに親子遠足を行うことができました。当日は心配していた天気もスッキリと晴れ、松前城広場で一日、楽しむことができました。遠足を心待ちにしている子どもたちも多く、前日から「お弁当にはウィンナーと玉子焼きをいれる!」「フルーツを持ってくるよ!」などと盛り上がる姿もありました。



当日は松前城を背景にクラスごとに集合写真を撮り、アンパンマン体操で体をほぐした後はミニ運動会をお父さん、お母さんと一緒に楽しみました。

かけっこ、フォークダンス、デカパンリレー、玉入れなどたくさん競技に一生懸命、親子で楽しむ姿が見られました。玉入れでは、お父さん、お母さん対年中組と年長組で行い、どちらも負けたくない気持ちがあふれるほど白熱していましたよ!

ミニ運動会で体をたくさん動かした後は、お楽しみのお弁当の時間。青空の下、おいしいお弁当をたくさん食べました。食べ終わった後は広場で子どもたちに配ったビーチボールで遊んだり、先生たちと鬼ごっこをしたりと楽しい時間を過ごし、有意義な一日となりました。



交通ルール、みんなで守ろう!

6月2日に交通安全教室が行われました。松前警察署の方々に来ていただき、交通ルールについて学ぶことが出来ました。子どもたちは、警察の方から正しい横断歩道の渡り方の話を真剣に聞きながら、信号機の色が変わるのを見たり、車が来ていないかなど丁寧に確認したりしながら、上手に渡ることが出来ました。



不審者対応では、DVDを見て警察の方と一緒に「いかのおすし」についてのクイズをしました。避難訓練での約束事を思い出しながら、積極的にクイズに答えている姿が見られ、正解すると「やったー!」と友達同士で喜び合う姿も!

園舎前では、パトカーや白バイの試乗もできて「かっこいい!」と子どもたちは大喜び!実際に警察の方が白バイを運転して見せてくれて、子どもたちも目の前の大迫力に大盛り上がりでした。

交通安全について、たくさん学び、子どもたちはとても貴重な体験をすることが出来ました。



大野幼稚園



遊びが基本!! 自然あふれる幼稚園 心も身体ものびのびと…



みんなの願いが叶いますように…☆

7月5日(火)に新函館北斗駅で行われる七夕のイベントに年長組が参加してきました。

当日は東京行きのはやぶさ22号と新函館北斗駅に到着したはやぶさ1号の2本を見ることができ、「かっこいい!」「ライトが光っている!」と大興奮の子どもたち♪はやぶさの前でみんなで写真を撮ることができました。

その後、事前に駅からいただいて、願い事を書いていた短冊を駅構内に飾りながら、「叶うといいな〜♪」と願いを込める子どもたちでした♪最後に駅員さんにお礼を伝え、帰りの園バスでは、「また行きたい!」「ずーしーほっきーに会いたいな!」と、新幹線により親しみをもつことができましたよ。



園開放を行っています♪

大野幼稚園では、年に数回、未就園児の親子を対象に園開放を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響で一度も開催できなかった年もありましたが、今年度は感染対策を行いながら6月と7月に久しぶりの園開放を開催しました!

普段幼稚園の子どもたちが楽しんでいるお店屋さんごっこや製作コーナーなどを親子で楽しむ姿が見られており、何度も足を運んでくださるご家族もいますよ!少しでも大野幼稚園の雰囲気を感じながら、親子や同年代の子どもと触れ合う機会になってほしいという思いで、引き続き行っていきたく思います♪



大野農業高校へ見学に行きました!

平成10年から始めた大野農業高校との体験交流では、毎年年長組が大野農業高校のお兄さん、お姉さんと様々な交流を行っております。じゃがいもの蒔きつけや観察、年中組と合同のいも掘りをしたり、牛や豚、羊などの動物を見に行ったりしていますよ!

今回は、9月に行ういも掘りの前に8月23日に年中組が一足早く大野農業高校へ見学に行きました。大きく育ったじゃがいものを観察したり、幼稚園から持ってきた図鑑を見ながら畑の横の蛙にも興味をもったりと様々なことに刺激を受けている子どもたち♪牛の観察や触れ合いでは楽しそうな姿が見られました。「年長組になったらまた会いに来るよ」と子牛に声を掛け終えた体験交流は楽しい思い出となったようです♪



港認定こども園



かわいい笑顔と笑い声 みんないっしょでたのしいね!



～開園から10年を迎えて～

平成25年4月、函館市第二港保育園の民営化に伴い開園した港保育園は、平成29年より、1号認定定員10名、2・3号認定定員50名の保育所型認定こども園に移行し、『函館大谷短期大学附属港認定こども園』と名称を変更、早いもので10年目を迎えました。天井から光が差し込む明るい園舎で、0歳児から5歳児の子どもたちが心も体も元気にのびのびと育ってくれるようお願い、教育・保育の実践に励んでいます。保育の特色としては、少人数で家庭的な雰囲気の中での「子ども」一人ひとりの育ちを大切にしたい保育を行っており、教育の特色としては、体力・バランス感覚・リズム感を総合的に養うことができる活動として、マーチングや合奏の他に和太鼓にも取り組んでいます。乳児保育・延長保育・一時預かり保育を行い、さらに、地域の子育て家庭に対する支援のために地域子育て支援センター『大谷港子育てサロン』を開設しています。子育てに関する相談や援助、情報提供、育児講座の実施など保育所保育の専門性を生かした子育て支援にも取り組んでいます。今後も保護者、地域の方々に支えられ、未来を担う子どもたちがすこやかに成長することを願い、職員一同、努力を惜しまず、日々精進して参ります。



頑張る姿が1番ステキ!

毎年、運動会のオープニングを飾るのはマーチングです。今年は「ドラゴンクエストのテーマ」に挑戦しました。お客様を前にドキドキしながらも、日々の練習の成果を十分に発揮した、素晴らしい演奏・演技を披露してくれました。障害物競走では、開園から今まで行った障害物をぎゅっと詰め込んだ、スペシャルコースに挑戦。ヨサコイや紅白玉入れ、リレーなど、最後まで一生懸命頑張りました。

当日はコロナウイルスの影響により、残念ながら参加できなかった子もいましたが、運動会に向けてみんなで力を合わせて頑張る姿は、とてもキラキラ輝いていました。



笑顔いっぱい! プール指導

『1、2、3、4!!』今日もプールサイドでは、子どもたちがプールのコーチと一緒に体操をする元気な声が響きます。プール指導は、水に慣れ親しむところから始めるので、水に顔をつけることが苦手な子にも一人ひとりのペースに合わせて無理なく進めてくれます。回数を重ねるうちに楽しさへと変わり、最後には笑顔になれる、子どもたちに大人気の活動です。年長児は年4回のプール指導を受けていますが、公共のルールやマナーを知り、体験することも目的としています。水の中での時間はあっという間。今年もサンスポーツクラブでのプール指導は、子どもたちにとって笑顔いっぱいの楽しい時間と大切な学びの時間になりました。



学 園 人 事

| | | |
|---|---|--|
| <p>令和4年3月31日付</p> <p>【退職】</p> <p>函館大谷短期大学</p> <p>講 師 小 山 貴 博</p> <p>函館大谷高等学校</p> <p>教 諭 秋 本 英 樹</p> <p>教 諭 秋 本 菜 月</p> <p>函館大谷短期大学附属認定こども園</p> <p>保育教諭 野 呂 星 来</p> <p>保育教諭 飯 川 恵 里</p> | <p>令和4年4月1日付</p> <p>【採用】</p> <p>函館大谷短期大学附属認定こども園</p> <p>保育教諭 高 橋 小 雪</p> <p>【兼務】</p> <p>函館大谷高等学校</p> <p>教 諭 佐 藤 健 一</p> <p>(高等学校事務長)</p> | <p>【異動】</p> <p>函館大谷短期大学附属松前認定こども園</p> <p>保育教諭 笹 田 栞</p> <p>(大野幼稚園教諭)</p> <p>函館大谷短期大学附属大野幼稚園</p> <p>教 諭 福 士 美 砂</p> <p>(松前こども園保育教諭)</p> <p>※()内前職</p> |
|---|---|--|

| | |
|------------|---|
| 訃 報 | ご生前のご功労を偲び謹んで哀悼の意を表します。岩井 悦子 先生 令和4年2月逝去(享年81歳) |
|------------|---|

編 集 後 記


今回の編集にあたり、たくさんのご協力、原稿をいただき、編集委員一同深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルスも一時期は落ち着いたかのように見えてきましたが、まだまだ油断できない日々が続いています。そんな中、規制が少しずつ緩和されつつあり、松前町でも花火大会やお祭りなどのイベントも数年ぶりに行われ、徐々に賑わいも戻ってきている事がうれしく思います。各部門ごと、いろいろな考えを出しながら以前と変わらない日常を過ごせるよう努めている事と思いますが、体に気を付け、皆さんで今のwithコロナ時代を乗り越えましょう。マスク越しの笑顔ではなく、そのままの笑顔が見られる日が早く来てほしいと願うばかりです。

(松前こども園 熊谷 尚弥)

◎ご意見募集…みなさまのご意見、ご感想をお寄せくだされば、うれしく思います。

| | |
|---------|---|
| 題 字 | 理事長 門間 佳一 |
| 発 行 | 学校法人 函館大谷学園 |
| 編 集 | 学園報編集委員会 〒041-0852 北海道函館市鍛冶一丁目2番3号 TEL 0138-51-5614 FAX 0138-52-6494 E-mail honbu@hakodate-otani.ac.jp |
| 編 集 委 員 | 樋口 也寸志 佐渡 敦美 小町 唯信 福田 理沙 濱嶋 幸司 木戸口 靖之 柴田 朋恵 熊谷 尚弥 長谷部 有里香 長谷川 安子 |
| 表 紙 写 真 | 毎年5月に行われている松前認定こども園さくら探検隊 |

| | | |
|----------------|--|---|
| 情 報 公 開 | 当学園の財務情報等については、公式ウェブサイトで公開しております。 http://www.hakodate-otani.jp/finance.php |  |
|----------------|--|---|